

●TOKYO北区ふるさと駅弁コンテスト

財団法人北区まちづくり公社（東京都北区）では、「まちづくりは人づくり」をキーワードに、住民の自主的な活動をサポートしています。今回は、その中から2つの活動をご紹介します。

1つ目は、「北区のまちをイメージしたお弁当を作って応募してください。大賞作品は駅で販売します。」という「TOKYO北区ふるさと駅弁コンテスト」。今年度で4回目を数え、応募総数も延べ834件。新聞でも大きく取り上げられたこともあり、多くの方に北区を知っていただき、まちに目を向けていただくイベントとなりました。

http://www.matikita.com/03_event/07ekiben/Kekka/eki_kekka.htm

2つ目は、「まちづくり活動冊子『街よ！元気になれ』」の発行です。この冊子は住民ボランティアが企画・編集に取り組み、平成15年から発行しています。3月12日に発行された第11号は、「新北区紀行～観光のススメ～」。北区で観光？と、首をかしげてしまう人へ「もう一度、北区の魅力を見つめ直してみませんか？」のメッセージを伝えています。B5版36頁（内カラー8頁）で、無料配布（送料自己負担）していますので是非ご覧ください。

http://www.matikita.com/05_sassi/sassi_index.htm

「まちづくり」は身近なところから一人でも気軽にできます。始めてみませんか？

文責者：寺田雅夫（財団法人 北区まちづくり公社）

紹介者：高尾利文（第二計画部）

●札幌のマンション修繕事情

人口189万の札幌には現在、約3300棟、15万戸の分譲マンション・ストックがあります。さらに、ここ数年は「都心回帰傾向」が強まり、中心部のマンション建設が活況を呈しています。年間降雪量が6メートルを超える札幌の都市形態は確実に「コンパクト・シティ」へと変貌を遂げ、北国の住まいとしてのマンション・ライフが定着してきました。

一方、バブル期に建てられた札幌市内の分譲マンションが一斉に改修時期を迎え、近年は大規模修繕工事が急増しています。

私の住んでいる築13年のマンション（130戸）も昨年9月、外壁タイルの張り替えや屋上防水などの大規模修繕工事を実施しました。改修費用は、設計費と施工費を合わせて約1億円かかりました。修繕工事は、雪解け後の2007年3月中旬に始まり、その後、入居者調整に難儀しながら、同年9月に完成。建物全体を覆っていた外部足場とシートが盛夏になる前に外れ、きれいになったマンションを見て、住民の皆さんが喜んでくれました。マンションの修繕委員を4年間続けましたが、苦労したかいがありました。

修繕委員会のメンバー10人の中には、建設関係の専門知識がまったくない素人の方が半数以上いました。その方々は今回の大規模修繕工事で“発注者”を体験し、「建設工事は単に安ければいいというものではない」ことを実感してくれたはずで

す。公共調達分野では「入札の落札額や落札率は低ければ低いほど競争性が確保され、好ましい」という論調がはびこっていますが、そこに風穴を開けていくためには、発注者を経験した市民が増え、建設工事への理解を深めてもらうことが必要だと感じます。

文責者：荒木正芳（株式会社 北海道建設新聞社）

紹介者：高橋裕之（業務部）

発行責任者：代表取締役 庄山 高司
事務局：株式会社アルメック 業務部
東京都目黒区青葉台 1-19-14
電話 03-5489-3211・FAX 03-5489-3210
Eメール hotnews@almec.co.jp
ホームページ <http://www.almec.co.jp>
